研修紀行

第 15 号

令和 7 . 8 年

第一部　令和7年度研修旅行

- ■ 常栄寺・瑠璃光寺・大内氏館跡
- ■ 龍蔵寺
- ■ 角島大橋
- ■ 元乃隅神社

第二部　令和8年度研修旅行

- ■ 栗林公園
- ■ 金毘羅宮
- ■ 満濃池と大歩危
- ■ 牧野植物園

編集後記

一般社団法人 練馬環境造園協会

第一部　　令和7年度研修旅行

- ■　常栄寺･瑠璃光寺･大内氏館跡
- ■　龍蔵寺
- ■　角島大橋
- ■　元乃隅神社

令和7年7月4日～7月5日　1泊2日

参加者名簿（敬称　略）

社名		参加者名	
アゴラ造園株式会社		荻野　淳司	小島　孝志
株式会社アップフィールド	◎	上原　謙	
株式会社アティ　東京支店		加藤　晃司	中島　仁
株式会社池田園緑化		池田　英夫	
株式会社小関田中園		田中　則雄	澤山　紘一
株式会社小西造園土木		小西　修司	
株式会社勝楽園	◎	碇石　豊	
株式会社植物環境リサーチ		亀山　雄一	
株式会社西部緑化		田仲　秀基	
株式会社田中造園		田中　啓介	尾崎　誠
株式会社豊和緑地		豊田　弘	小林　太郎
株式会社本橋造園		本橋　武司	

◎　旅行幹事

令和７年４月吉日

（一社）練馬環境造園協会
会　員　各　位

（一社）練馬環境造園協会
理事長　荻　野　淳　司
広報担当理事　小西修司

旅行幹事　碇石　豊
上原　謙

『令和７年度研修旅行』のお知らせ

謹啓　時下益々のご清祥のこととお慶びもうしあげます。
平素は当協会の運営につきましては格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、この度令和７年度の研修旅行といたしまして**『山口市常栄寺雪舟庭、瑠璃光寺、大内氏館跡をめぐる旅』**を下記の日程にて企画いたしましたのでご案内致します。会員の皆様にはお忙しいとは思いますが、何卒多数ご参加くださりますようお願い致します。

記

実施年月日　：　令和７年７月４日（金）～7月５日（土）　一泊二日
参加費用　：　一人 100,000 円
集合場所　：　羽田空港　７月４日（金）午前 9 時 00 分集合　※時間厳守　詳細は後日連絡。

工　程

７月４日（金）　羽田空港 10:30 発・・ＡＮＡ693・・12:05 山口宇部空港 12:20・・12:30 頃かめうら苑（昼食）13:20・・14:00 常栄寺（雪舟庭）～瑠璃光寺～大内館跡 16:40・・17:00 頃湯田温泉「西の雅　常盤」（泊）

７月５日（土）　ホテル 8:30 発・・8:45 龍蔵寺（拝観）9:45・・10:30 道の駅おふく 11:45・・角島大橋・・12:00 ｸﾞﾗﾝﾋﾞｽﾀ角島（昼食）13:00・・13:50 元乃隅神社（断崖絶壁に 123 の鳥居）14:40・・16:30 山口宇部空港 17:45・・ＡＮＡ700・・19:25 羽田空港

連絡先　：㈱勝楽園　碇石　豊　宛　　FAX　03－3922－4165

※御手数ですが予約等の都合上出欠の確認を５月 12 日（月）までに FAX 願います。

切り取らないでこのまま送ってください

研修旅行に　　参加　　　欠席　　　します。(どちらかに○をつけてください。)

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　参加者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

参加者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

参加者氏名

常栄寺(雪舟庭)･瑠璃光寺･大内氏館跡

アゴラ造園(株)　小島孝志/(株)勝楽園　碇石豊/(株)本橋造園　本橋武司

はじめに

山口市は、かつての大内氏の本拠地であり、戦国時代の遺跡や歴史的な建造物が多く残っています。瑠璃光寺の五重塔や大内氏館跡など、歴史的な名所が点在しており、雪舟の庭園が広がる常栄寺も、禅の精神を感じながら静けさを楽しめる歴史に興味のある人にはたまらない場所です。

概要・感想等

１．常栄寺(雪舟庭)

常栄寺(雪舟庭)

常栄寺は、著名な禅僧・画家の雪舟が手掛けた枯山水庭園が有名な寺院です。我々以外に訪れている人はいなく庭園内は静寂に包まれ、自然と人の心が調和した空間が広がっていました。石組や水の流れが巧妙に配置され、雪舟の美的感覚が表現されています。庭園を囲む山々とともに、時間を忘れさせるような深い静けさを感じました。

研修を通じて、雪舟が描く世界観を体感でき、芸術と禅の奥深さに触れることができ、心が洗われるような貴重な体験でした。

２．瑠璃光寺

瑠璃光寺にて

次に瑠璃光寺を拝観しましたが、国宝で有名な五重塔は残念ながら令和の大改修工事のため近寄る事は出来ませんでした。しかし、遠目でも塔の美しさや精緻な建築技術は印象的で、五重塔の壮大さを感じることができ、修復作業が進む中で、守り続けられる文化遺産の大切さを改めて実感しました。

奥の方では受験に縁起があると言われる、松と一体化しているサルスベリや手を叩くとビヨーンと音の反響する石畳があったりと見所満載でした。

３．大内氏館跡

大内氏館跡

戦国時代の大内氏の壮大な拠点である大内氏館跡では、発掘された遺構や広大な敷地に現在も土塁や堀跡が残り、当時の面影を感じることができました。

当時の繁栄を偲ぶことができ、栄華と衰退を学ぶ貴重な機会となり、歴史の重みを実感しました。

終わりに

過去と現在を感じさせる風景が市内の生活に違和感なく溶け込んでいるのが山口市の魅力の一つなんだなと思いました。７月の３５度を越す厳しい暑さの中での文化遺産巡礼は疲れましたが、暑さを感じつつも、どの場所も心に残る深い体験となりました。

角島大橋

㈱田中造園：田中啓介、尾崎誠　㈱アップフィールド：上原謙　㈱小関田中園：田中則雄　澤山紘一

はじめに

角島大橋は平成12（2000）年に開通した本州と角島を結ぶ全長1780メートルの橋で、橋の長さは無料で渡ることのできる橋としては日本屈指の長さで、完成した当初は日本一でした。角島大橋の全景は本州と角島の中間にある鳩島を迂回するように大きくカーブしていて、橋脚の高さを抑え、テトラポットの数も抑え、周囲の景観に配慮した構造になっています。また、景観の美しさから、様々な映画やドラマ、CMなどの撮影場所になっています。

見どころ

1．コバルトブルーとエメラルドグリーンの海

橋の両サイドには美しい海が広がっており、貝殻が砕けて堆積した白い砂で、海水が澄んでいるため、太陽光の加減で見る位置によってエメラルドグリーンからコバルトブルーに変化していく海を見る事が出来ます。

橋の中間にある鳩島の近くは、海流の関係で、橋に向かって寄せる波と、橋に当たって返す波がぶつかり合って白い壁のように見え、壁の先がコバルトブルーに見え、手前の橋の近くがエメラルドグリーンに見え、壁によって海の色がくっきり変わって見えてとても綺麗です。

2．角島灯台

角島灯台は明治9（1876）年に完成した日本海側で初の洋式灯台で、「日本灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブラントンによって設計されました。また、日本に2基しかない無塗装の灯台の一つで、塔全体を花崗岩で統一しており、とても美しい見た目です。
高さは約30メートルで、日本で三番目の高さで、日本に五ヶ所しかない第1等レンズを使用しています。現在も現役で活躍していて、現役で使われている最古の灯台レンズで角島灯台は国の重要文化財に登録されています。
灯台の内部は105段の螺旋階段になっていて、最上階まで上るとコバルトブルーの日本海が広がっています。

終わりに

今回の研修では時間の都合上、角島灯台の上からの眺めは見る事は出来なかったですが、天気にも恵まれてとても美しいグラデーションの海を見る事が出来ました。特に本州側からの美しい海に架かった角島大橋はとても綺麗で、感受性が刺激され有意義でした。

『龍蔵寺』

㈱池田園緑化　池田　英夫
㈱小西造園土木　小西　修司
㈱植物環境リサーチ　亀山　雄一

はじめに

当日は朝から気温が高く、いわゆる「真夏日」で、移動だけでも体力を消耗するような暑さでした。しかし、その分、現地で感じた自然の涼やかさや木陰のありがたみが、より心に残る体験となりました。龍蔵寺は歴史的価値の高い名勝や庭園、寺社など多くの要素が含まれており、造園に関わる私たちにとって学びの多い場所でした。

概要・感想等

龍蔵寺は山口市の吉敷という地域にあるお寺で、奈良時代に行基によって開かれたとされています。
山あいにあり、周囲は木々に囲まれていて、まるで別世界に来たような感覚になります。
とはいえ、当日は朝から気温がぐんぐん上がり、参道を歩くだけで汗がにじむような暑さでした。
帽子と水分が手放せない一日だったのは言うまでもありません。

楼門（入口）

そんな中でも、杉の並木や木陰の続く石段、苔むした境内など、自然の涼しさを感じられる場所が随所にあり、ホッとできました。
人の手を入れすぎず、自然と調和するように整えられた景観は、造園の仕事をする私たちにとって大いに参考になるものでした。

「名勝　鼓の滝」へ登道

また、宝物庫にも立ち寄りました。中には重要文化財の薬師如来坐像をはじめ、平安時代や鎌倉時代の仏像・仏具などが静かに展示されており、歴史の重みを感じる空間でした。
薄暗い室内で出会った仏像の表情はとても穏やかで、暑さを忘れてしばらく見入ってしまうほどでした。手入れの行き届いた境内の自然と、こうした文化財との組み合わせが、龍蔵寺の大きな魅力だと感じました。

宝物庫

終わりに

今回の龍蔵寺見学では、気温は高くても心は落ち着くという、ちょっと不思議な体験をしました。自然の中に身を置くことで得られる涼やかさや癒し、そして時をかけて育まれてきた風景の持つ力に触れ、あらためて「造園っていいな」と感じたひとときでした。この学びを、日々の仕事にも活かしていきたいと思います。

元乃隅神社

（株）豊和緑地　豊田弘　小林太郎　（株）西部緑化　田仲秀基　（株）アティ東京支店　加藤晃司　中島仁

はじめに

元乃隅神社(もとのすみじんじゃ)は、昭和30年に、地域の網元であった岡村斉（おかむらひとし）さんの枕元に現れた白狐のお告げにより建立されました。

昭和30年頃まではお堂だけでしたが、昭和33年に祠を建立し、その後、昭和62年から平成9年に現在の社殿が整備され、赤い鳥居が123基奉納されました。10年間かけて奉納された鳥居が100m以上にわたって並ぶ景色はまさに圧巻で、山口県屈指の観光名所として人気があります。

神社の御利益

神社のご利益としては商売繁盛や大漁・海上安全をはじめ、良縁、子宝、開運厄除、福徳円満、交通安全、学業成就など様々な願いごとができます。

（写真1）

龍宮の潮吹

≪国指定天然記念物及び名勝≫

「龍宮」は、この地帯の海蝕地形の総称です。この地帯は第４紀洪積世（現在より約２００万年～１万年前）の安山岩からできています。岩の間に黄色く見える部分が流紋岩で、その部分が波で削れて洞ができます。

その洞内に打ち寄せる波が突入するごとに、圧縮された洞内の空気が縦約１ｍ、横約０．２ｍの隙間より外に出ていこうとして海水を一緒に吹き上げる現象が見られます。吹き上げる海水は、北東の風が吹き海が荒れると３０ｍにも達することがあるそうです。

（写真2）

白波が吹き上がる様子が天に昇る龍に似ていると言われ、自然の力強さを体感することが出来ます。

この奇観は龍神のなせるわざとして、広く里人の間に信仰を集め、とりわけ干ばつの際には近郷より雨乞いに集まる人が多かったと言われています。

『日本一お賽銭が入りづらい賽銭箱』

鳥居は高さ6メートル、賽銭箱の位置は5メートルの高さにあり、「日本一入れにくい賽銭箱」として有名です。参拝者はその鳥居の上に向かってお賽銭を投げ入れる必要があり、見事お賽銭が入れば願いが叶うと言われています。

（写真3）

終わりに

青い海を背に赤い鳥居と緑が映える景色が素晴らしい神社でした。CNNの『日本の美しい風景３１選』にも選ばれ、観光客も多く訪れるようになったそうで、外国人観光客の増加・SNSをはじめとする情報発信の方法の変化なども含め興味深くまわることが出来ました。

第二部　　令和8年度研修旅行

- ■　栗林公園
- ■　金毘羅宮
- ■　満濃池と大歩危
- ■　牧野植物園

令和8年7月9日～7月11日　2泊3日

参加者名簿（敬称　略）

社名	参加者名		
アゴラ造園株式会社	荻野　淳司	小島　孝志	香取　大
株式会社アティ　東京支店	加藤　晃司	◎ 中島　仁	
株式会社池田園緑化	池田　英夫		
株式会社小関田中園	田中　則雄		
株式会社小西造園土木	◎ 小西　修司		
株式会社勝楽園	碇石　豊		
株式会社植物環境リサーチ	亀山　雄一	加藤　樹	
株式会社西部緑化	田仲　秀基		
株式会社田中造園	田中　啓介	尾崎　誠	
株式会社豊和緑地	豊田　弘	小林　太郎	長瀬　裕司
株式会社本橋造園	本橋　武司		

◎　旅行幹事

令和８年４月吉日

（一社）練馬環境造園協会
会　員　各　位

（一社）練馬環境造園協会
理事長　荻　野　淳　司

広報担当理事　田仲秀基
旅行幹事　小西修司
中島　仁

『令和８年度研修旅行』のお知らせ

謹啓　時下益々のご清祥のこととお慶びもうしあげます。
平素は当協会の運営につきましては格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、この度令和８年度の研修旅行といたしまして「**栗林公園と金毘羅詣り、五台山竹林寺と牧野植物園**」を下記の日程にて企画いたしましたのでご案内致します。
会員の皆様にはお忙しいとは思いますが、何卒多数ご参加くださりますようお願い致します。

記

実施年月日　：　令和８年７月９日（木）～7月11日（土）　二泊三日
参加費用　：　一人120,000～130,000円（調整中）
集合場所　：　羽田空港　７月９日（木）午前８時20分集合
（詳しい集合場所は後日連絡致します。）

工　程

7月９日 羽田空港9:20発…高松空港…昼食…栗林公園…15:00紅梅亭(泊)　着後…金毘羅詣り

7月10日 ホテル9:00発…満濃池…大歩危…昼飯…かずら橋…高知城…17:00西鉄イン(泊)

7月11日 ホテル8:30発…桂浜…五台山竹林寺…牧野植物園…昼食…高知空港…17:20羽田空港

連絡先：㈱小西造園土木　小西　宛　　FAX　03－3924－1608

※御手数ですが予約等の都合上出欠の確認を４月24日（金）までにFAX願います。

切り取らないでこのまま送ってください

研修旅行に　　参加　　　欠席　　　します。（どちらかに○をつけてください。）

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

参加者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

参加者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

参加者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

栗林公園

（株）アティ　中島仁　加藤晃司
（株）豊和緑地　豊田弘　小林太郎　長瀬裕司

概要と歴史

　栗林公園は香川県高松市にある公園で、国の特別名勝に指定されている文化財庭園です。
 文化財公園としては日本最大の広さになります。

　成り立ちとしては、地元の豪族が自身の隠居所として作った庭が起こりとされています。その後江戸初期に湧き水や池を利用して「南湖」一帯が造成された後、高松藩の藩主である松平家が回収を重ね五代藩主の頼恭の時代に１００年越しの完成を迎えたとされています。

　尚、様式としては池泉回遊式庭園になります。

感想等

　栗林公園という名前ですが、松が中心の公園で栗の木はほとんどありませんでした。
名前の由来は、「かつて栗の木が群生していた」「中国で木が生い茂った里山を栗林と呼ぶから」等、諸説あり定かでは無いそうです。

　とても面白いものとしては公園の中に「菊月亭」と呼ばれる茶屋があり、その傍にある「根上り五葉松」と呼ばれるものがあり園内屈指の名木と言われる松があります。クロマツの台木に接ぎ木して仕立てられた松で、当時の高い園芸技術を伝える貴重な歴史的遺産でもあります。

　栗林公園の見所の一つに箱松と呼ばれる松もあります。屏風松と呼ばれる松と合わせることで立体感を演出する松の木で、名前の通り離れたところから見ると、箱型に整えられています。
写真は箱松を横から見た図になりますが、枝の仕立てによって、トンネルの様になっているちょっと変わった面白い景色を楽しむことが出来ました。

　園路を歩くと立派な仕立ての松が目立ちますが、た。自然な樹形の松もたくさんあり、様々な風合いの木を楽しむことができます。
松の内訳としては、手入れ松が約千本、自然松が約四百本の計千四百本になります。

まとめ

　園路を歩きながら様々な視点から見ることで大きく印象を変えつつも、全体でみると非常にまとまった回遊式庭園の一つの完成形として実に見応えのある場所で、再び訪れ今回見切れなかった部分も含めてもう一度見て回りたい様な場所でした。

金毘羅宮

(株)本橋造園　本橋武司
アゴラ造園(株)　荻野淳司　小島孝志　香取太 / (株)小関田中園　田中則雄

はじめに

今回の四国研修旅行では、造園協会の研修の一環として香川県の金刀比羅宮を訪れました。歴史ある神社や周辺の町並み、伝統建築を見学し、その歴史や文化に触れるとともに、今後の業務や活動の参考とすることを目的として参加しました。

概要・感想等

１．大門

大門前

金刀比羅宮は古くから「こんぴらさん」として親しまれ、海上安全や商売繁盛の神様として全国から多くの参拝者が訪れます。参道には歴史ある町並みが続き、石段を登りながら風情ある景観を楽しむことができ、石畳や石垣、周囲の樹木が調和した景観は、長い年月を経ても大切に維持されており、多くの参拝者を迎える空間づくりの大切さを感じた。

大門は365段目に位置し、1年の日数と同じ段数にあることから、ここをくぐると神域に入るとされている。今回は参加者の約半数が大門までタクシーを利用し、若手もさりげなく一緒に乗ったため、「若いのだから下から歩け」と先輩方から冗談交じりに声を掛けられる場面もあり、終始和やかな雰囲気の中で階段を登りました。

御本宮への階段

２．御本宮

御本宮までの７８５段は想像以上に長く、登り切った時の達成感は格別でした。御本宮は約1000年前に建立され、現在の社殿は約100年前の改修を経ながら大切に受け継がれており、釘を一本も使わない伝統工法で造られていることに驚かされました。境内からの眺めも素晴らしく、時間の都合で奥社まで参拝することはできなかったが、次回訪れる機会があればぜひ足を延ばしたいと思います。

御本宮前にて

今回は体力面などの都合で御本宮までたどり着けなかった諸先輩方もおられたため、その分も含めて皆さんの健康と協会のさらなる発展を願いながら参拝しました。
タクシー組の若手は「歩いていないから」と写真から外され、笑いの絶えない研修でした。

終わりに

金毘羅宮の歴史や伝統建築について実際に見て学ぶことができ、写真や資料だけでは分からない魅力を感じることができました。久しぶりの二泊の研修で、親睦も深まり、有意義な時間となりました。この経験を今後の仕事や活動に生かしていきたいと思いました。

満濃池と大歩危

(株)植物環境リサーチ　加藤樹
(株)勝楽園　碇石豊　/　(株)西部緑化　田仲秀基

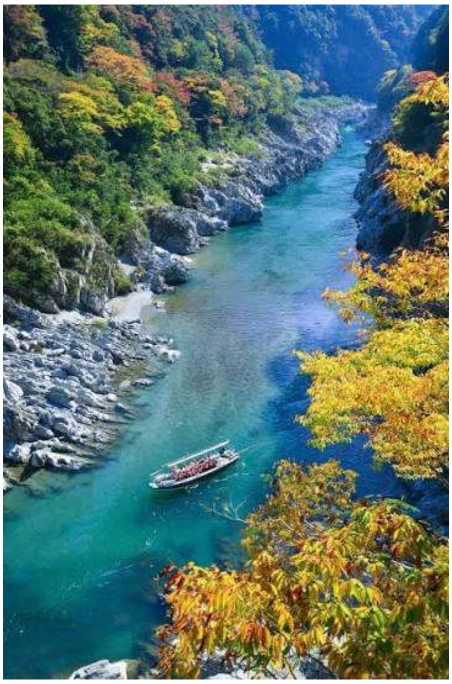
はじめに

　今回の研修では、香川県の満濃池と徳島県の大歩危を訪れました。
それぞれの場所で、日本の歴史や土木技術、そして雄大な自然について学ぶことができ、とても有意義な研修となりました。

概要・感想等

満濃池は、日本最大級の農業用ため池であり、約1300年の歴史を持っています。
特に、弘法大師・空海が修築に携わったことで知られ、現在でも多くの農地を潤す重要な役割を果たしています。

　主な修築・整備における人数について821年の空海による再築：史料に具体的な人数は明記されていませんが、非常に多くの人々が協力して短期間で成し遂げたと伝えられています。
852～853年の修復：讃岐国守・弘宗王による工事で、人夫 19,800人 を動員。明治2～3年（1869～1870年頃）の復旧
高松藩などの支援による工事で、
役夫 144,900人 を動員。など今まで多くの人の手で守られ今現在もその役割を果たしています。実際に広大な池を目の前にすると、当時の人々がどれほどの苦労を重ねて築き上げたのかを実感しました。



大歩危は、徳島県を流れる吉野川が約2億年もの長い年月をかけて結晶片岩を侵食してできた渓谷です。同じような地質は埼玉県の長瀞にも見られ、日本では大歩危・小歩危と長瀞が代表的な例とされています。どちらもプレートの沈み込みによってできた三波川変成帯の岩石が地表に現れ、川の浸食によって現在の美しい渓谷が形成されました。

終わりに

今回の研修を通して、歴史的な土木遺産と壮大な自然の両方に触れることができました。した。満濃池では人々の努力と技術の重要性を、大歩危では自然環境の壮大さとその価値を学びました。とても充実した研修となり、多くの学びと思い出を得ることができました。

牧野植物園

(株)田中造園　 田中啓介　尾崎誠
(株) 池田園緑化 池田英夫　/　(株)小西造園土木 小西修司

はじめに

　今回の四国研修旅行では、高知市五台山にある高知県立牧野植物園を見学しました。同園は、高知県出身の植物分類学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰し、その研究精神を伝える植物園です。

概要・感想等

　園内では、牧野博士ゆかりの植物をはじめ、四国や高知に自生する植物、薬用植物など多様な植物が環境に合わせて展示されていました。特に印象に残ったのは、展示施設と屋外の植栽が分断されず、一つの学習同線として構成されていた点です。牧野博士が残した植物図や標本、研究資料を見た後に実物の植物を観察できるため研究成果と現在の植物を結びつけて理解することができました。

　また、五台山の地形や既存の樹林をいかした園路は、植物園そのものが一つの景観として成立していました。樹木の高さや枝張り、下層植生、日照条件など場所により異なり、それぞれの植物に適した環境を作る工夫がみられました。造園・樹木管理の視点からも、植物を単体で扱うのではなく、周辺環境や将来の成長まで考慮して維持管理費する必要性を改めて感じました。

　今回の見学を通じて、植物園は鑑賞のための施設ではなく、調査研究、希少植物の保全、教育普及を担う社会的施設であることを理解しました。植物に関わる仕事では、経験に頼らず、名称や性質を確認し、観察した内容を記録して共有することが、安全で適切な管理につながると考えます。

終わりに

　牧野植物園では、植物を見るだけでなくその特徴を読み取り、記録し、守り伝えるといいう考え方を学ぶことができました。今回得た視点を、今後樹木管理や造園作業における観察、判断、記録へ生かしていきたいと思います。

■編集後紀■

現地を実際に訪れ、その景観や自然に触れることで、造園に携わる者として新たな視点や気づきを得ることができました。また、会員相互の親睦を深め、交流を図る機会としても、大変有意義な研修となりました。
本誌の編集に携わる中で、会員の皆様それぞれの視点から研修を振り返ることができました。今回の学びを今後の技術向上と、練馬の緑の保全・創出につなげていければと思います。
最後に、研修旅行の企画・運営にご尽力いただいた皆様、ならびに原稿・写真をお寄せいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

田仲 秀基　株式会社西部緑化

当初の予定通りに第15号を発行することが出来ました。お忙しい中、レポート作成にご協力頂きました皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。
第13号から広報委員を担当させていただいておりますが、この研修を通じて、普段はなかなか出来ない同業者の方々との深い交流を通じて、色々な勉強をさせて頂いており、大変有意義な時間を過ごさせて頂いております。これからも協員の皆様に楽しんで頂けるよう頑張りますので、引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

加藤 晃司　株式会社アティ 東京支店

今回、広報委員として研修紀行作成に携わることとなり、改めて研修を振り返る機会をいただきました。実際に現地を訪れ、普段の業務だけでは得られない知識や気づきを得ることができ、大変有意義な研修だったと感じています。また、参加された皆様との交流を通じて、造園業に携わる仲間とのつながりの大切さも改めて感じました。
今回の研修で得た経験や知識を、これからの仕事に活かしていくとともに、広報委員として会員の皆様に研修の様子や協会の活動を分かりやすくお伝えしていければと思います。
最後になりましたが、研修の企画・運営にご尽力いただいた幹事様、そしてご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

田中 則雄　株式会社小関田中園

皆様のご協力のおかげで、第15号をお届けすることができました。レポートをご提出いただいた皆様に心より感謝申し上げます。今回の研修旅行では2泊3日で香川・徳島・高松を巡り、四国ならではの豊かな景観や造園技術を直接体感する素晴らしい機会となりました。
同業者である会員の皆様と寝食を共にし、深く語り合えたことも大きな糧となっております。今後も皆様に親しまれる広報誌を目指して努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

小西 修司　株式会社小西造園土木

※委員長以下あいうえお順

令和8年10月1日　発行

研　修　紀　行　第15号

発　　行　　一般社団法人 練馬環境造園協会

広報委員会
田仲 秀基　(株)西部緑化　（編集責任者）
加藤 晃司　(株)アティ　東京支店
田中 則雄　(株)小関田中園
小西 修司　(株)小西造園土木